

FD NEWS

No.27 2009年6月30日
摂南大学FD委員会
〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8
TEL: 072-839-9106
E-mail: kvomu@ofc.setsunan.ac.jp

摂南大学 

FD — 今、改めて

学 長 今井光規

本学FD委員会がコンスタントに進めてきたことの一つは、授業公開です。各学部の授業公開の案内が全学の教職員に届きます。教師であれば、人から指摘されるまでもなく、分かりやすい字で板書するとか、教室の最後列まで届く声で話すといったことは当然実行していることだと思っていました。ところが最近、授業を覗かせていただくと驚くことがあります。学生との意思疎通が欠如したまま、私語が始まるたびに「やかましい」と注意して、そのまま独りで熱心に授業を進める先生や、パワーポイントの画面を早口で説明し、学生の理解が得られたかどうかは気にしない先生もありました。昼休みに学内で出会う学生たちから、「〇〇先生は、何を言っているのか分からない。胸のマイクが下を向いていて、雑音しか聞こえない」という訴えも時々あります。互いの授業から学ぶことが不必要とはとても言えないというのが最近の感想です。

本学の改革の取り組みは予定どおり進捗しています。関係の皆様のご尽力の賜物です。入試説明会や新学部・新学科就任予定者の方々との打合せ会、各学部での説明会などで強調してまいりました改革のポイントは、総合大学としての摂南大学のシナジーを最大限に発揮する方向、教育・研究両面を強化するものであること、学生たちに自主的・積極的な勉学意欲を起こさせるものであること等です。最後の点はとくに重要です。受け身の姿勢で単位をそろえて卒業するのではなくて、勉学に取り組まずにはいられない、魅力ある授業、社会とのつながりや達成感を実感させるような科目が揃っているカリキュラム、学部横断のシナジー効果が十分学生たちに伝わる教育を目指すものということです。今回の改革は、単に学部や学科を作るというだけのものではありません（それ自体たいへん大きな意味がありますが）。今述べた改革の効果を大学全体に波及させ、新しいタイプの教育を実践する新しいタイプの大学のモデルになることを目指した極めて意欲的な取り組みです。本学は学問的研究も大事にしますが、実践的な教育を重視することは教育理念としてはっきり謳っています。このことは強く意識しておかねばなりません。

本学はあらゆることを学生の視点に立つて行うことにしています。これも教育理念に謳っています。しかし、われわれは本当に十分に学生の立場を考えているでしょうか。たとえば、FDについて言えば、授業アンケートは実施していますが、FD活動そのものに学生を直接参加させる機会を設けているでしょうか。同様に、事務と教員の関係を問い直すことも必要ではないでしょうか。教員と職員の協働・協力はこれからの大事なポイントだと思います。

本学のFD活動が以上のような点も踏まえて、さらに進化し充実することを祈ります。

全学 FD 委員会には、4つの SG (Study Group) があり、SG 1 は「授業アンケート」、SG 2 が「授業改善」、SG 3 が「情宣」、SG 4 が「教員研修」活動を主として担当している。

以下、各 SG のリーダーに「2009 年度の活動方針及び取組み課題」等について述べていただいた。

SG1 2009 年度 活動方針—「学生による授業アンケート」について—

全学 FD 委員会 委員長 SG 1 リーダー 八木俊策 (工学部)

本アンケートは本学の教育力を測定し、本学で開講する授業の教育方法を継続的に改善するための組織的な FD 活動の推進を目的として、2002 年度から実施されています。

実施対象は昨年度と同様に、ゼミ・実験・演習および履修者数・回答者数が 10 名以下の科目を除く全授業科目です。ただし、これ以外の科目についても、学部・学科・教員が必要とする場合は実施できるものとします。

実施日程は前期が 2009 年 6 月 22 日 (月)～7 月 4 日 (土)、後期が 2009 年 11 月 25 日 (水)～12 月 8 日 (火)の各 2 週間です。実施方法に関して、アンケート用紙の配布と説明は昨年度どおりですが、アンケート用紙の回収と事務室への提出は受講生に依頼することになりました。具体的な実施要領は、アンケート用の封筒に貼ってあるアンケート実施票をご覧ください。

集計結果等の取扱いは昨年度と同様に、(1)各授業担当教員への結果の報告、(2)各学部・学科への結果の報告、(3)摂南大学内の掲示による公開、(4)摂南大学ホームページ上の学内公開とします。

今年度の SG1 では、主として「授業アンケート結果を授業改善に活用するための組織的取組の実質化」、「アンケート自由記述欄を授業改善に活用する有効な方策」等の課題について検討します。

以上

SG2 2009 年度の活動目標について

全学 FD 委員・SG 2 リーダー 太田義器 (外国語学部)

本年度 SG2 の課題は以下のように 4 つある。

- (1) 公開授業の実効性向上の検討
- (2) 授業アンケート結果に関する学生参加型の FD フォーラムの開催
- (3) 授業チェックシート導入の検討
- (4) 全学 FD フォーラムの実施

(1)については、授業改善に関する教員のニーズに基づいて実施されることが肝要であるとの考えから、教員アンケートを実施、その結果に基づいて対応していくこととした。(2)および(4)については、できるだけ多くの教員の参加が期待できる内容と形態を検討する。(3)については、その内容および導入の可否についてグループ内で検討を進める。

以上

SG 3 2009 年度 活動方針及び取組み課題

全学 FD 委員・SG 3 リーダー 紙 博文（経営情報学部）

FD 活動の広報（情宣）担当として以下の活動をする。

(1) FD ニュースの充実

- ① 本学 FD 活動の現況を広報する。
 - ・年 3～4 回の「FD ニュース」の発行
 - ・魅力的な「巻頭」の企画
 - ・各学部 FD 委員会の活動状況の報告

② その他

(2) H・P 活用の検討*

(3) その他

* 2009 年 3 月に摂南大学公式 HP の「教育システム」サイトに「FD 活動」という項目が設けられました。しかしながら、本学 FD 活動の概要を述べるにとどまっており、コンテンツの充実が求められている。今後、これをいかに活用していくか、すなわち本学 FD 活動に関するタイムリーな情報の掲載、そしてそのメンテナンス等、問題も少なくはありません。

以上

SG 4 2009 年度 活動方針及び取組み課題

全学 FD 委員・SG 4 リーダー 牧田 勲（法学部）

SG4 は、教員研修を担当するが、本年度は昨年度に引き続き「新任教員研修」のプログラム作成と研修実施を課題として取り組む予定である。そのために、(1) 情報収集（他大学の新任教員研修の実態を知るためのデータ収集）、(2) 2010 年度新任教員のための研修内容の検討、(3) 研修実施への協力などを行う。

情報収集については、最近桜美林大学で開催された「新任教員研修プログラムのデザインと開発」に参加し、新任教員研修の企画・運営についてのノウハウや、名大・上智大・東京農工大・立命館大学の実態について知ることができたので、それを今後に生かしたい。

研修については、現在実施に向けて計画中である。

以上

第 14 回 摂南大学 FD フォーラムの実施報告

2008 年度 全学 FD 委員会 委員・SG 2 担当 有馬善一（経営情報学部）

2008 年度の全学 FD フォーラムは 2009 年 3 月 18 日（水）13 時～17 時 45 分 寝屋川学舎 5 号館 5 階 552 教室で開催された。

基礎教育の充実をどう図るかという FD フォーラムのここ数年の検討課題の一環として、今回は「初年次教育」に焦点を当てた。第 1 部では、初年次教育に対して先進的な試みを行っている、関西国際大学と玉川大学から講師をお招きしての基調講演、第 2 部では、初

年次教育に対する各学部への報告を行った。

関西国際大学の濱名学長の講演では、初年次教育の必要性への認識、また、それに対する大学をあげての取り組みの過程が報告された。単なるお題目ではない実質的な教育改革とはいかなるものかが示されたと思われる。玉川大学の菊池コア・FYE 教育センター長の講演では、初年次教育を進める上で、教育目標をいかに教員全体へと浸透させる上での問題点とその克服の方法について組織論的な観点から報告をいただいた。期せずして本学の抱えている問題に対する処方箋として大変有意義な講演であったと思われる。

各学部からの初年次教育への取り組みについての報告では、文系各学部では初年次教育を基礎ゼミの中でどう取り上げているかについて、理系学部ではそれぞれの特色ある初年次教育プログラムについて報告がなされた。これまで知る機会がなかった他学部での取り組みについて、参考になる情報が得られたと思われる。

長時間にわたるフォーラムとなったが、本学の初年次教育を推進する上で意義のあるものになったかと思われる。参加いただいた教職員、関係各位にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

【編集部より】

＊今年度（2009 年度）の全学 FD 委員会メンバーは次の先生方です。

FD委員長 八木 俊策

教務部長 渡部 一仁（オブザーバー）

SG1：八木俊策(B)、佐野潤一(A)、三藤利雄(I)、家口美智子(L)

SG2：太田義器(L)、福田市朗(I)、牛丸與志夫(J)、島田伸一(数物)、横田 祥(M)

SG3：紙 博文(I)、片田喜章(E)

SG4：牧田 勲(J)、藤森廣幸(Y)、河野武幸(Y)、瀬良昌憲(C)、朝日素明(L)

(先頭は SG リーダー)

FD委員会から

＊ 2009 年度の前期授業アンケートが、6 月 22 日(月)～7 月 4 日(土)まで行われます。先生方におかれましては、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

＊ 2009 年 4 月号(No.583)の『書斎の窓』(有斐閣)に関口礼子氏(元大学教授)が「[学生による授業評価]の現状を考える」という論文を寄せている。そこでは、各大学で現在、実施されている学生による授業評価の現状を被評価者の範囲、授業評価の内容、結果の公表の仕方、結果の利用、評価の位置付け等についてコンパクトに整理されている。ここでいくつか気がついたところを述べてみたい。まず、授業評価が意味あるために関口氏は、必ず、評価項目に次の 3 つの点を入れなければならないと主張されている。① 授業がシラバス通りに行われているか。② 1 単位を出すのに、45 時間の学修が課せられているか。③ この授業をうけたことによって、知識や技術が得られたと感じたか、あるいは感情の深化がみられた。あるいは学習する意欲がわいたかどうか、である。また、現在実施されている授業評価に関する教員の典型的な反応としては、①「学生の通りにはできませんよ。見ないことにしています。」、②「みんな点数の高くなる項目だけに精を出します(教員査定の項目が周知されている大学)。」③「…この学生は私には合いません…」を挙げている。なお、関口氏によれば、授業評価はほとんどの大学で導入されているが、その方法については“未だ試行錯誤中である”とのこと。どのような方法をとるかは、“教員が、快く仕事ができ、その大学の授業がよく行われるかどうか”とされている。しかしながら、こうした言葉には納得できるものの実際の方法は、となると“難しい”のひと言に尽きる。だが、「…教員が、快く仕事ができる…」という視点は大切にしたいものである。

＊ 皆様からのご意見を紙面でも紹介したいと考えています。随時、メールで結構ですから、FD委員もしくは教務課(kyomu@ofc.setsunan.ac.jp)までお寄せ下さい。